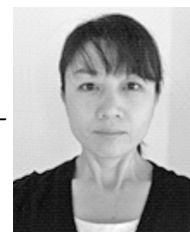




# 探究学習を支援する学校図書館

—信頼できる資料・情報の提供とよりよい資料・情報収集の指導を目指して—



行武 望

## <抄録>

島根県立出雲高等学校はSSH・SGHに指定され、全生徒が課題研究等の探究学習を行っている。図書館ではその支援のために本・雑誌等の資料やパソコン・タブレットを多数配置し、多様な情報検索ができる環境を整えている。新聞記事データベース「朝日けんさくくん」なども活用して、信頼できる資料・情報を入手するよう指導している。

## <キーワード>

SSH, SGH, 探究学習, 学校図書館, 情報検索,  
「朝日けんさくくん」

## 1 出雲高校のSSH・SGHおよび図書館について

島根県立出雲高等学校は島根県東部出雲市にある、理数科・普通科あわせて1学年8クラスの高校である。本校は育てたい人材として「地域・社会のリーダーとして貢献できる人材」を掲げさまざまな教育活動を行っている。その一環として、平成25年度から科学技術系人材育成のためのSSH(スーパーサイエンスハイスクール)、平成26年度から国際的に活躍できるグローバル・リーダー育成のためのSGH(スーパーグローバルハイスクール)の両事業の指定校となった。この両事業の本校で行われる内容は大きく2つある。

1点目は「科学や国際社会に対する関心・意欲・態度の醸成」として、研究者等による講演会や大学・研究施設での研修、海外研修である。2点目は「論理的な思考力・判断力・表現力の育成」として1年次の「調査・探究活動」、2年次の「ディベート演習」「課題研究」、3年次の課題研究の外部発表等の探究学習の全クラスでの展開である。

この探究学習を図書館でも支援している。昨年度の図書館での授業等での利用時間数は400時間余りであったが、これらはSSH・SGHに関連する探究学習が大半を占める。図書館には約4万冊の本をはじめ、朝日新聞、山陰中央新報等の新聞や、『ニュートン』『切り抜き速報版科学と環境版』などの雑誌を図書館資料としているが、生徒用パソコン9台やSSH予算で購入のタブレット30台

も配置されている。また、図書館近くにあるパソコン教室の45台のパソコンと校内LANで繋げ、どちらで作業しても情報を共有できるようになっている。また、昨年度11月より新聞記事データベース「朝日けんさくくん」を導入し、図書館やパソコン教室のパソコンとタブレットで検索・閲覧できるようにしている。このような図書館資料やICT機器を、調べものやレポート・発表用資料の作成等に活用している。

## 2 探究学習と情報検索

出雲高校のSSH・SGHの探究学習を詳しく紹介する。

1年生は、週1回「SS基礎」という授業で探究学習の基礎となるスキルを身に付ける。1学期は個人やグループで意見文の作成や、本や雑誌等の紙資料やインターネット資料の調べ方、情報カードの書き方、それらのまとめ方等を演習する。2学期以降は、プレ課題研究としての「調査・探究活動」を5人程度のグループで行う。分担して図書館資料やタブレット等で情報収集し、考察・まとめを行い、3学期のポスター発表に向けて探究学習を行っていく。

2年生は週2回「SS探究A」(普通科理系)、「SS探究B」(理数科)、「SG探究」(普通科文系)という授業でディベート演習と課題研究を行う。

4、5月はディベート演習を行う。5人程度のグループごとに数時間の調査活動を行った後、ディベート原稿を書き、クラス内でグループ対抗のディベートを行う。

6月からはクラス内で希望分野別に4~6人のグループに分かれ課題研究を行う。各グループには校内の教員が1名アドバイザーの役割を担う。この課題研究は主に先行研究等文献を手に入れ読んで上で、必要があれば実験やインタビュー調査、アンケート調査等を行っていく。2学期半ばの中間発表を経て、3学期の研究発表会へ向けて研究活動を進めていく。

3年生はこれらの研究を基に市役所職員や小中学生・地元大学生・留学生等に向けて発表し、研究の成果を地域に還元していく。

このような本校の探究学習では、自分たちの主張する

YUKITAKE, Nozomi : 島根県立出雲高等学校 (島根県出雲市今市町 1800 番地)

提言・問題解決のために、いくつかの根拠を示し、論理的に説明していくことが必要である。その際の根拠となる情報は、正確なものでなければ研究が成り立たない。そのためには信頼のできる情報や文献を収集することが大切になってくる。それを習得するため、まず1年生のSS基礎「情報検索演習」では、本やインターネットでの情報収集の演習を行う。演習ではまず司書が本、インターネット、新聞、新聞記事データベース、雑誌、パンフレット・リーフレット等のメリット・デメリットを示しながら、それぞれの情報源の信頼性を説明し、生徒は実際に本やパソコン等を使って情報を収集し、情報カードに記入していく。その後も、教員と司書により、それぞれの活動の時点で信頼できる情報を収集し、引用元を明示するよう指導している。特に、さまざまな文献・情報を収集すること、それぞれの資料の特性を理解しながら活用すること等を繰り返し伝えている。

しかし、インターネットの利用については、生徒は適切な検索ができず、信頼できるサイト・情報になかなかたどりつかないことが多い。教員・司書はそれらの情報についてはサイトによって信頼度に幅があるので、そのサイトが信頼できるものかどうかを判断するポイントを伝えながら、信頼できるサイトを使うようにと何度も指導している。具体的には個人のSNSやブログ、ウィキペディア等を見るのは情報収集のきっかけとしてはよいが、これだけでは参考文献とはならないので必ず他の資料も使って裏付けをとることや、新聞記事や研究論文、官公庁が発表する統計データ等は比較的信頼できる情報であるが、こちらも1つだけではなく複数の情報を集めて見比べること等、信頼のできるサイトの利用やインターネットだけではなく本や新聞・雑誌等のさまざまな情報源を使うようにと伝えている。

情報収集を行う時には信頼できる情報源を具体的にいくつか紹介しているが、その1つとして「朝日けんさくくん」も紹介し、今年度は年度当初から本格的に利用している。

今年度の2年生ディベート演習は「日本は、すべての車を自動運転化すべきである」という論題で行ったが、当然、情報収集の段階では「自動運転」だけを調べればよいわけではない。自動車事故や環境問題、雇用の問題等、自動車を取り巻く諸問題の現状と、人工知能の現状、今後の見通し等を調査する必要がある。そのため生徒はさまざまな情報を調べていたが、これに「朝日けんさくくん」を活用することでさまざまなデータや記事を多数見ることができた。

また、2年生の課題研究では、テーマ設定の段階から活用している。新聞記事データベースだと現在話題になっていることの情報が手に入りやすく、今年のアメリカ

大統領選挙や、ここ数年大規模化しているハロウィン行事に関する情報等の記事を読み、テーマに関する知識を深め、独自の調査活動を進めることにすることに役立っている。



写真1 図書館での調査の様子

### 3 探究学習以外の「朝日けんさくくん」の活用

1つは、生徒向けの展示としての利用である。現在本校では生徒への自然科学分野への関心を持ってほしいという思いから朝日新聞「科学の扉」を校内各所に掲示している。当初は紙面からカラーコピーをしていたが、「朝日けんさくくん」の導入以降は、パソコンからカラー印刷を行い、鮮明な記事を掲示することで生徒の興味・関心を引くのに一役買っている。

2つ目は「グローバルレポート」への活用である。SSH・SGHの担当部である教育開発部では世界各地で働く卒業生や他のSGH指定校等を紹介する「グローバルレポート」を生徒向けに発行している。その中で世界各地の話題・ニュースを取り上げて紹介する際に「朝日けんさくくん」などから記事を引用し紹介している。

これらの掲示や引用にあたっては朝日新聞社から許諾を得ている。

### 4 今後の課題

生徒の情報検索については未だ課題は残るものの、少しずつ改善できている。今後は課題研究を一緒に行う校内のアドバイザー教員にも、生徒の課題である「信頼できる情報を基にすること」「引用と自分たちの考察を分けて考え、記述すること」という指導をさらに充実させるため、「朝日けんさくくん」や各種データベース等の活用方法を具体的に伝え、情報の収集方法や記述方法をより詳しく伝えていく必要があると考えている。